

■(アントニン・)レーモンド チェコ出身の建築家。ライトの弟子で来日。多くの作品を多く残し、日本人建築家に大きな影響。

れいもんど

初の対等条約1888＝

オーストリア＝ハンガリー帝国ボヘミア地方(現在のチェコ)クラドノに、父アロイと母ルジーナの間の1男第3子アントニン・ライマンとして生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 1歳：

郡司千島探検1893＝ 5歳：

日清戦争始・1894＝ 6歳：

八幡製鉄始・1897＝ 9歳：

子規句歌革新1898＝10歳：

Bushidou・・1899＝11歳：

教科書疑獄・1902＝14歳：

日比谷公園・1903＝15歳：

日露戦争終・1905＝17歳：

満鉄発足・・1906＝18歳：

伊藤博文暗殺1909＝21歳：

韓国併合・・1910＝22歳：

大逆事件判決1911＝23歳：

明治天皇没・1912＝24歳：

大正政変・・1913＝25歳：

第一次大戦始1914＝26歳：

ニューヨーク市庁舎コンペでギルバートのために働く。

アルバイトで透視図を描き、稼いだ金でイタリアに渡るが、サラエボ事件が起こり、アメリカ市民権(レーモンドに改名)を得て帰る船上で、ノエミに会い、カス・ギルバート事務所に戻った後、ノエミと結婚。

ノエミの友人セント・クレア・ブレコンズがミリアム・ノエルと友人で、F.L.ライトを紹介される。アリオンセンへ行き、一時、ライトの許で働く間、帝国ホテル支配人林愛作夫妻と会う。

徴兵され、情報機関試験にとって士官となり、イタリア前線に参加。

ベルンのアメリカ公使館で補佐、ジュネーブで情報収集に携わるうち、第1次世界大戦が終り、

アメリカに帰る。F.L.ライトの誘いで、帝国ホテル設計の助手となり、共に来日。

*ライトの許を去り、丸の内で、米国建築合資会社をスラックと始め、「千歳幼稚園」の設計なども受注、

東京テニスクラブ、東京クラブ会員になる。新帝国ホテル未完成のまま、ライトは離日。

関東大震災で、ノエミはニューヨークへ。会社を{レーモンド事務所}として独立するが、ライトの影響が余りに強烈であったため、そこから抜け出すのに苦労したという。

聖心女子学院の修道院および教室「星商業学校」。豊南坂にRC造の自邸が完成。

最初の子供生まれるが、すぐに死去。アメリカ建築家協会(AIA)会員となり、アメリカへ旅行。

ノエミがニューヨークでクロードを出産。大戦終了後独立したチェコスロバキア共和国の名誉領事となり、

以後11年務める。ベレを介してライトの影響を脱し、「エリスマン邸」「ライジングサン石油会社ビル」、

「小林聖心女子学院本館」「ライジングサン石油会社社宅」など、最先端のモダニズム建築を創り始める。

「イタリア大使館日光別邸(現在の中禅寺保養所)」は、ライト建築との決別を象徴し、ペドジフ・フォイエールシュタインと共同での「聖路加国際病院」や、「アメリカ大使館」「ソヴィエト大使館」など、次々受注。

世界恐慌・・1929＝41歳：

海軍軍縮条約1930＝42歳：

満州事変・・1931＝43歳：

五一五事件・1932＝44歳：

国際連盟脱退1933＝45歳：

帝人疑獄事件1934＝46歳：

創業以来のメンバー内山隈三が死去。「清心高等女学校(ノートルダム清心女子大学本館)」

前川國男が入所(以後5年)。「聖路加国際病院」は不評で、建設途中で解雇される。

「東京女子大学図書館」「旧アメリカ大使館」。「アントニン・レイモンド作品集」「レイモンドの家」出版。

欧米旅行。「旧藤沢カントリー倶楽部クラブハウス」「東京ゴルフクラブ」「聖母女学院」ほか、

ル・コルビュジエの計画画を取り入れた「夏の家(ペイネ美術館)」が完成(後に抗議あるも和解)。

銀座に「教文館ビル」が完成、事務所を移す。滞日中のブルーノ・タウトが来所。「赤星鉄馬邸(カトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会)」「聖ポール教会(軽井沢聖パウロカトリック教会)」、ベレの代表作ル・ランシーの教会堂をコピーした「東京女子大学礼拝堂および講堂」、

銀座に{ミラテス}開店、井上房一郎と交流。「アントニン・レイモンド作品集1920-35」出版。

銀座の鐘紡サービスステーションや資生堂で作品展が開かれるほど、広く知られるようになった。

「スリ・オーロピンド・ゴーズ僧院宿舎」建設のため、フランス領ボンディシェリに赴く。

「レーモンド建築詳細図集」1000部限定出版。ニルギリスで療養、プラハに赴き、父弟に会った後、アメリカに滞在、ライトに会い、ニューヨーク建築連盟で講演、ロックフェラーセンターで展覧開催するうち、

*日本を取り巻く国際情勢が悪化したため、ニューホープにペンシルベニア州に土地を購入し、農家に増改築を施した事務所を構え、当地で設計活動。ニューヨーク日本文化協会の茶室を受託し、

所員の吉村順三を呼ぶが、

東京事務所を閉鎖、吉村も帰国。ついに日米開戦となる。以後、アメリカの対日戦争協力者となり、

この年のフェルナン・レジェ、アメデ・オザンファンほか、生涯、多くの一流芸術家と交流、

所員だったジョージ中島を日本人抑留所から引取る。アメリカ軍が焼夷弾の効果の検証実験のため、ユタ州の砂漠に東京下町の街並み「日本村」を再現する際、日本家屋を設計、のち批判を受けることになる。

この年までに、アメリカで5件ほど個人住宅の作品を残している。

日本の敗戦になると、

この年、東京内幸町の鷲塚事務所で旧所員が東京事務所再編をはかる。

ダム建設予定地の調査のため*再来日。吉田首相に会う。パンフィックコンサルタンツを共同設立し、リーダーズ・ダイジェスト東京支社の設計に際して、レーモンド建築設計事務所を再建し。

ダム建設予定地の只見川の視察。マッカーサーに会う。

リーダーズ・ダイジェスト東京支社敷地に事務所を設置し、株式会社レーモンド建築設計事務所設立。

「日本楽器ヤマハホール」「レーモンドホール」。MGM各支社及びフィルム倉庫の仕事始まる。事務所並びに自邸「麻布笄町の家」を建設、現存しないが、高崎市に、これを模範に建設された旧井上房一郎邸がある。

「リーダーズ・ダイジェスト東京支社」完成で、AIA名誉会員、日本建築学会作品賞、

「安川電機本社ビル」。さらに、AIAゴールドメダル候補となる。

「カニングハム邸」「P.J. ドーラン邸」「原田邸」、「聖アンセルム目黒教会」、

「森村邸」。ヤマハピアノのデザイン。井上房一郎の依頼で「群馬音楽センター」の設計を開始、

AIAニューヨーク支部より「The Medal of Honor」を受ける。「聖アルバン教会」「聖パトリック教会」、

AIAより、「八幡製鉄体育館」で“Award of Merit”、「聖アンセルム目黒教会」で“Firs Honor Award”。

「葉山海の家」「八幡製鉄レクリエーションセンター」「富士カントリークラブ」。

ニューヨーク・プレスビテリアン病院で、椎間板ヘルニアの手術。

「国際基督教大学図書館」「イラン大使館」「立教高等学校本館校舎」、

「東京聖十字教会」「札幌聖ミカエル教会」「群馬音楽センター」が完成。

南山大学設計始まる。{Architectural Association Journal}がレーモンド特集号。

軽井沢の新スタジオ完成。「立教学院聖パウロ礼拝堂」「ブライス邸」「H. 伊藤邸」、

勲三等旭日中綬章。「南山大学総合計画」で、

前立腺手術のためアメリカで入院。「新発田カトリック教会」。日本建築学会賞作品賞。

「もみの木の家」「立教小学校講堂礼拝堂」「神言神学院」。日本建築家協会終身会員となる。

SD選書17「私と日本建築」出版。「聖マリア修道女会幼稚園及び修道会」、

「上智大学6号館・7号館」。「ハワイ大学・汎太平洋域国際会議センター」計画での「ハワイ行きを最後に、

「マースクライン支配人住宅」。「世界各地への旅行も終り、

三沢浩訳「自伝アントニン・レーモンド」出版。銀座松坂屋と高崎で「アントニン・レーモンド展」。

「現代日本建築家全集1アントニン・レーモンド」出版。

*「マースビル」を最後に、アメリカのペンシルベニア州ニューホープ戻り、建築家を引退。

没した。東京の聖アンセルム教会で追悼ミサが行われた。

インターネットWikipedia、三沢浩「アントニン・レーモンドの建築」